

ネットワークアンケート ⑤6

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

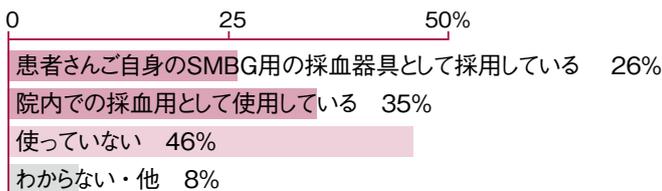
Q. SMBGの手技指導で、患者さんに慣れていただくのが難しいと感じる操作は？

より良い血糖コントロールの力強い味方「血糖自己測定 (SMBG)」。30年以上にも及ぶその歴史の中で、測定器本体はどんどん改良されてきました。SMBGのための採血器具もやはり、年々進化しています。今回は、そんな採血器具にスポットを当ててアンケートをお願いしました。

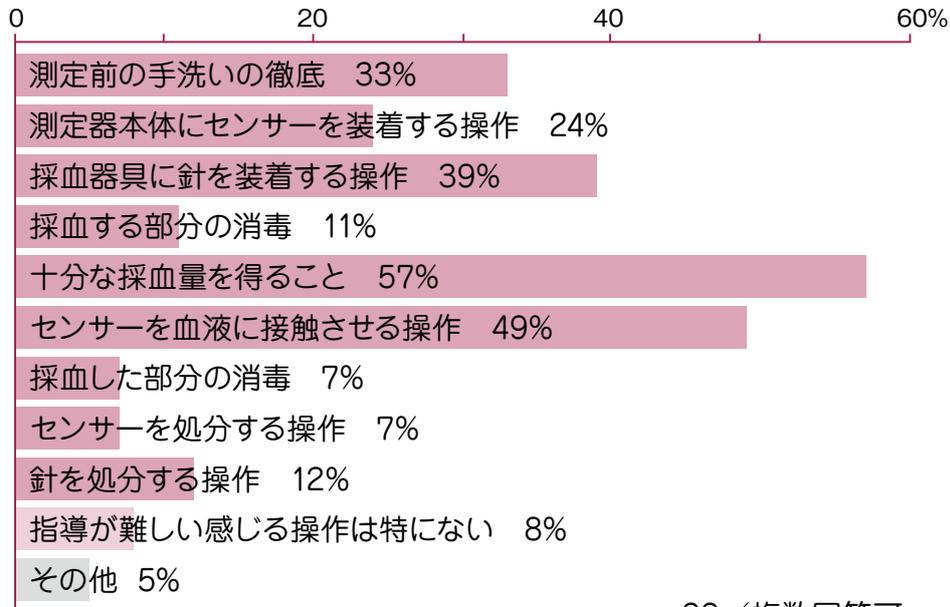
[回答数：医療スタッフ140 (医師14、薬剤師9、看護師56、栄養士6、臨床検査技師6、その他49。医師以外のスタッフ126には、日本糖尿病療養指導士48、地域糖尿病療養指導士19を含む)、患者さん431 (1型198、2型185、その他48。経口薬療法34%、インスリン療法63%、ポンプ療法13%、GLP-1受容体作動薬療法4%)。重複あり]

SMBGに伴う一連の手技の中で、指導が困難だと感じる操作を複数回答可で選んでいただきました。結果は「十分な採血量を得ること」が一番多く選択されて6割近く、「センサーに血液を接触させる操作」が5割、「採血器具に針を装着する操作」4割が選択されました。測定器そのものの操作より、採血に関わる操作の指導を困難とお感じのスタッフが多いことがうかがえます。患者さんへのアンケートでも似たような傾向が見てとれました(右ページ参照)。

Q. 器具全体がディスポーザブルタイプの採血器具をお使いになられていますか？

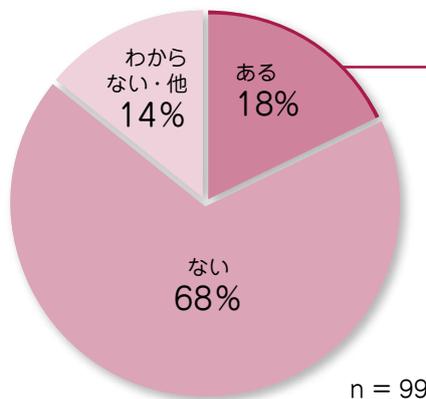


SMBGの採血器具の中で最も操作が簡単で安全性が高いのは器具全体がディスポのタイプと考えられますが、「使っていない」が46%と浸透率はまだまだあまり高くない模様。



n = 99 / 複数回答可

Q. SMBGの採血器具の取り扱いで、ヒヤリハットの経験はありますか？



スタッフの2割弱が、SMBG採血器具取り扱いに関するヒヤリハットの経験ありとのこと。「あり」と回答された方にお書きいただいた具体的な内容からいくつか以下にピックアップします。

使用済みの針が付いたままで自分に刺そうになった(40代、女性、看護師) / 穿刺具の外からは針がついているかどうか判らず指導した看護師が針刺し事故に(50代、女性、医師) / 耳朶採血で指まで針が貫通(50代、女性、看護師) / 繰り返し刺すことができる器具を使用していたところ同じ針で違う患者に刺したことがある(40代、女性、看護師) / 針を30日間使用していた患者がいた(50代、女性、看護師) / 採血後の針を一般ごみに捨てていた患者がいた(60代、女性、看護師) / 血液が付着したまま携帯している患者がいた(50代、女性、看護師)

しかし、実際に使っているスタッフの方からは、「手技が簡単で安全」「感染の恐れが少ない」「恐怖感を与えずに済む」「院内スタッフや患者家族など、本人以外が穿刺する場合のリスク回避」「患者用はコスト

面重視だが、職員用は緊急使用が中心なので完全にディスポ」などのメリットを指摘する声も寄せられました。一方「使っていない」スタッフは、その理由にコスト負担を挙げる回答が目立ちました。